

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 渋川市立渋川南小学校

① 指導案

プログラム	No. 05 「地域カルタをつくろう」
単元名 (全20時間)	南小カルタをつくろう
学習のねらい	○自分の学校区のことをよく知り、そのよさを全校や地域に伝える。 ○国語、社会、図工での学習を活かして、分かりやすいカルタを作成する。
学習内容	1 上毛カルタを導入とし、カルタのよさをみつける。 2 南小カルタをつくるために必要な内容を考え、場所を選ぶ。 3 読み札の内容を考える。 4 実際に写真を撮る、市役所などと連絡を取るなどして、絵札を作成する。 5 学校でカルタを披露し、南小地区のよいところを発表する。
参考資料	○上毛カルタ 渋川カルタ 市観光パンフレット 渋川市の歴史
準備品	○デジタルカメラ 画用紙 色鉛筆 マジックペン
実施場所等	・図書館、小学校、中学校、高等学校 ・商店街 ・工場群 ・市役所、保健事務所 ・公園 ・駅前 ・地元偉人の生家 等

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1 く 5	○上毛かるたについて調べる。 ・観点別に内容を分類する。 ・内容の理解を深める。 ○渋川かるたについて調べる。 ・観点別に内容を分類する。 ・内容の理解を深める。 ◎カルタのよさについて、話し合う。	○どんな観点があるかについて支援をする。 ○内容の理解にあたっては、写真や動画などを準備し、具体的な様子を視聴させたり、説明をしたりする。 ○カルタのよさ、グループで取り組む良さを考えさせる。	○地元のカルタについて理解が深まり、カルタへの興味関心が高まったか。
6 く 10	○学区内でカルタの内容となるものを選ぶ。 ・観点を決める。 ・それぞれの候補を挙げる。 ・挙げられた候補について読み札を考える。 ・読み札を持ち寄り、50音になるよう調整する。 ・選ばれた候補の担当者を決める。	○児童の知識だけでは不足する内容もあるので、候補が上がらなかった場合には、支援する(地元出身の偉人など)。 ○読み札については、一人に一つ以上は考えさせる。50音になるようにするためには、教師主導で行うことも考えられる。	○観点に沿って候補を挙げることができたか。 ○読み札を考え、話し合いによって決めることができたか。






11 く 17	○自分で撮ってきた写真、パンフレットの写真、インターネットから取り込んだ写真などを基に、絵札を作成する。	○自分で撮る場合には、保護者へ協力を依頼する。 ○パンフレットは、市役所の観光課と連絡を取りながら（児童に取らせながら）集める。 ○インターネット利用では、著作権等に留意させる。 ◎どのような構図が分かりやすいかを指導する。 ○色鉛筆やマジックなど児童が使いやすいものを選ばせる。	○読み札の内容に合った絵札を作ることができたか。
18 く 20	○自分が作ったカルタの内容と作成にあたっての苦労や感想を発表する。 ○クラスでカルタを楽しむ。	○一人一人の思いを大切にするようにさせる。	○カルタ作成にあたり、達成感を感じることができたか。

<留意点>

○児童一人一人の思いを大切にするとともに、全体のバランスや出来栄の巧拙について配慮しながら学習を進める。

② 事業実施報告書詳細

学校名 渋川市立渋川南小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1～3	教室	<p>○上毛カルタや渋川カルタについて調べる。</p> <p>○観点別に内容を分類し、カルタの構成や読み札の内容について理解を深める。</p> <p>○カルタのよさについて、話し合う。</p>	 	<p>○上毛カルタは覚えているが、渋川カルタについては知らないことが多かったので、勉強になった。</p> <p>○カルタは、勉強にもなるし、みんなで遊べるのでおもしろい。</p>
4～7	教室	<p>○学区内でカルタの内容となるものを考え、分担する。</p> <p>○個人で内容を考え、絵や読み札の文言を作る。</p> <p>○できたものを発表し合い、意見交換をしてより良いものにする。</p>	 	<p>○上毛カルタと渋川カルタを参考にしたいけど、人物について情報がないことがわかった。</p> <p>○2年生の生活科「まちたんけん」で学習した地域の人の努力を参考にしたい。</p>
8～17	各取材場所ならびに教室	<p>○決定した絵札・読み札を分担し、取材方法を考える。</p> <p>○放課後や休日に、取材や写真撮影をする。</p>		<p>○たくさんの観光地や自慢したい場所があるので楽しみだ。</p> <p>○知らない人に話すのでドキドキしたが、おもしろかった。</p>

		<p>○取材や撮影を基に、絵札を作成する。</p> <p>○構図については、グループで話し合う。</p> <p>○必要に応じて、読み札の文言を変えることも検討する。</p>	 	<p>○パンフレットなどのどの部分を使うか悩んだ。</p> <p>○写真だとわかりやすいけど、絵にかくのは難しかった。</p> <p>○地域で協力していることがわかった。</p>
18～20	教室	<p>○できあがったカルタの発表会をする。</p> <p>○グループごとにカルタ大会をする。</p> <p>○振り返りをする。</p> <div data-bbox="507 1198 798 1400">  <p>ね 南の 木林</p> <p>ね く る か も</p> <p>ね つ げ す</p> </div> <div data-bbox="507 1422 798 1624">  <p>へ ま ま つ り</p> <p>へ に ほ ん い ち の ま し ろ ま つ り</p> </div> <div data-bbox="507 1646 798 1870">  <p>し ら さ わ か 川</p> <p>し 昔 お よ い だ 子 ど も た ち</p> </div>	<div data-bbox="817 853 1129 1077">  <p>あ 南 小</p> <p>わ た し の じ ま ん の</p> <p>あ た ら し く て</p> </div> <div data-bbox="817 1115 1129 1339">  <p>え お い し い た べ も の に お い が す る</p> <p>え き ま え は</p> </div> <div data-bbox="817 1384 1129 1608">  <p>し ぐ ふ 川 駅</p> <p>し 二 つ の 路 線 の ぐ ふ ん き 駅</p> </div> <div data-bbox="817 1653 1129 1877">  </div>	<p>○みんなで協力して、考えることは大切だと思った。</p> <p>○住んでいるところでも知らない場所があった。</p> <p>○自分が住んでいるところを大切にしたい。</p>

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

○地元のカルタを参考にする

県民に広く親しまれている上毛カルタであるが、内容について学習していなかった。単に覚えているだけであったが、この時間を使い内容の理解を深めることができた。

○地域や保護者に働きかける

児童の活動範囲は、家庭と学校が大部分である。通学路以外を歩いたり市全体を見渡した視点をもったりすることができない。そこで地域について理解を深めるために、保護者に依頼し、写真を撮ったり市役所など外部機関の方と話す機会を設定したりした。

○一人一役を分担する

文章を考えるのが得意な児童、絵をかくのが得意な児童、またその逆な児童もいる。どの児童にも活躍できる場を設定するために、それぞれの希望や得意分野を明らかにするとともに、児童同士の話し合いによって譲り合ったり、希望を優先させたりした。

(2) 実施にあたり苦労した点

○カルタを観点別に分類する

児童は抽象的な内容について理解できず、産業、文化、歴史といった概念がないため、内容に偏りが見られる傾向があった。例えば、公園、図書館という個々の事例については表現できるが、これらをまとめて公共施設という表現はできないので、自分たちが知っているものについての内容が多くなった。地域全体の様子から判断して、バランスよく内容を選定するところは教師主導となった。

○公平な分担にする

上記で一人一役と記述したが、どの児童にも納得した分担となるように話し合いを充実させた。話し合いのルール、思いやり、譲り合いの気持ち、自分の希望を伝えることの大切さなどを確認しながら話し合った。

○保護者や外部機関との調整をする

保護者の協力を得ることが必要であった。保護者に温度差があり個人差ができた。熱心に関わる保護者と関心の低い保護者とは取材結果に大きな差ができてしまった。この個人差をカバーするために担任が代わりに写真を撮るなどした。また市役所などの取材において児童が直接交渉したのでは必要な要件が伝えられないことが予想されたので、担任が事前に連絡した。この連絡に時間が必要であった。

(3) 児童の反応

○みんなで協力して、考えることは大切だと思った。

○案を出し合って、協力できた。

○住んでいるところでも知らない場所があった。

○自分の住んでいるところを大切にしたい。

○いろいろ知っている友達がいて、驚いた。

○自分の知っているところを紹介できてうれしかった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

教師は該当校における赴任年数によるが、地域（学校区）のことについてあまり知識がない。さらにそのよさを感じることはより一層難しいと考えられる。本単元を実施することによって教師が地域（学校区）に対しての知識と理解が深まり、教材研究や授業において地域素材を活用することができた。地域素材を活用すると児童も教材に対する親近感がわき、授業に意欲的に関わることができるようになってきた。

この実践を担当外教諭に伝えることにより、地域（学区）への理解が全教職員に広まってきた。保護者に知らせることにより、児童の行動範囲や興味関心が地域（学校区）へ広がりが見られるようになってきた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

(2) で述べたように、児童は抽象的な内容について理解できていないので、カルタの内容についての分類をどのような観点で行うかが課題となる。児童の主体性を生かしつつ、様々な観点が選べるよう教師がどのように働きかけるか考えていきたい。

また、地域の偉人となるとその絶対数が少ない。有名人に置き換えても然りである。どちらにせよ情報が少なくカルタの対象となりえていない。地域の情報収集に取り組み、児童が興味関心を示す人物を探す必要がある。

今後も本校として継続して取り組むとなると、今年度との違いをどのように出していくかも課題となる。公共施設などの観点を見直すことによって読み札の文言を変えることが可能となるが、児童の思考過程を活かす手立てについて留意していきたい。